

新年 賀 謹



雪をまとった伯耆富士（大富士）



よなば

第622号

令和7年1月発行

電子版第79号

「地域と共に」

新年のあいさつ

米子駐屯地司令

一等陸佐 中尾 圭介



隊員ご家族、諸先輩、そして地域の皆様とともに歴史と伝統を継承しつつ成長してまいりました。

新年あけましておめでとうございます。

隊員ご家族の皆様、日頃からご支援・ご協力をいただいている駐屯地協力をはじめとする協力諸団体の皆様及び地域の皆様におかれましては、令和七年のよき新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

米子駐屯地は、本年度創設七十五周年を迎えます。この間、

我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しく複雑になっており、かつ気候変動等により大規模な自然災害が常態化しております。多くの方が自衛隊に対して「何でもできる」というイメージを持たれているかと思いますが、我々が真の実力を発揮するためには、自治体や協力諸団体をはじめ、地域の皆様の理解・協力が不可欠です。このため、我々は厳しい訓練を通じて自らの練度を維

持・向上させつつ、駐屯地として「また来たい米子駐屯地」をビジョンに掲げ、隊員の生活・勤務環境を改善するとともに、皆様との良好な関係を維持・向上するための各種取り組みを行っているところであります。昨年は、各種防衛警備任務、災害対応のための訓練を行い、例年通り米子がいな祭に参加するとともに、初めて鳥取しゃんしゃん祭に参加する等、地域の行事への参加・協力を積極的に行い、地域との連携を重視して隊務を運営してまいりました。

今年は已年です。蛇は脱皮によって皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わります。このため、古くから再生や永遠の象徴とされ、日本各地でも信仰の対象とされています。また、こうした姿から已年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年とも解釈されています。

米子駐屯地としても、いっ

如くなる任務を与えられようとも迅速・確実に任務を遂行し得るよう、諸先輩方が築いてこられた伝統を継承しつつ、小さな一歩が大きな成果に繋がると信じて新しいことに挑戦しながら、日夜練成に励むとともに、地域と共にある駐屯地として精進する所存です。

新年のご挨拶

米子駐屯部隊協力会

会長 青砥 隆志



隊員ならびにご家族の皆様、明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

米子駐屯地は、部隊創設以

来75年目を迎えられ、その間、昨年12月に着任された中尾司令を始め、歴代駐屯地司令統率のもと厳しい訓練を通じて精進な部隊を築き上げること

に尽力され、国民の生命と安全を守るという崇高な任務を遂行されていることに深く敬意を表します。

さて、旧年を振り返ります

と、年明けから大規模な被害をもたらした能登半島地震では、米子駐屯部隊におかれま

しても、石川県輪島市での生活支援等の災害派遣任務に尽力され、被災された方々に



いま、その一歩を踏み出すとき

JAPAN PRIDE

自衛官募集 詳しくは自衛隊鳥取地方協力本部まで 0857-23-2251 または 鳥取PCO 検索



駐屯地ビジョン

～また来たい米子駐屯地～

第四十二代第八普通科連隊長 一等陸佐 中尾 圭介 着任



十二月二十日、米子駐屯地において第四十二代第八普通科連隊長に一等陸佐 中尾 圭介が

着任の辞

ただ今より、第8普通科連隊長の指揮を中尾1佐が執る。
我が国が戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しているなか、山陰防衛の要である第8普通科連隊長を指揮する機会を得たことを大変光栄に思うとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いである。

また、着任に際して、多くの人から「第8普通科連隊長は素晴らしい部隊だ。」と聞いており、この日を非常に楽しみにしていた。

さて、諸官承知の通り、国外情勢は、グローバルなパワーバランスが大きく変化し、国家間の競争が益々顕在化している。また、力による一方的な現状変更やその試みが現に実施され、既存の国際秩序に対する深刻な挑戦となっている中で、国際社会は戦後最大の試練の時を迎えている。また、国内に目を向ければ、異常気象による甚大な自然災害が常態化するともに、大規模地震の発生も懸念される状況であり、国民の自衛隊に対する期待は非常に高く、政府からは防衛力の抜本的強化を残り約3年で完遂するよう求められているところである。

他方、昨今、自衛隊において、隊員の尊い命を失うような重大事故、自衛隊の信頼を失墜するような事案が発生しており、森下陸上幕僚長は「危機感」を現場の隊員レベルまで認識させることが重要であることを強調され、小林中府総監は「事態に備えよ」

「健全性の維持」「伝統の継承」の3点を、今村13旅団長は「励もう」「健全・安全」の2点をそれぞれ要望されている。

以上を踏まえ、当連隊長を指揮するにあたり、私の統率方針を「所命必達、無事帰還」とし、要望事項として「万事件作戦を基準」「仲間と家族を大切に」の2点を要望する。

私は、愛国心とは「大切な家族を守りたい」という思いからくるものであると考えており、私自身、大切な家族が平和に暮らし続けることができる国を後世に引き継ぐための一助になればという思いで自衛官という仕事を続けている。10年前、FTTC（富士訓練センター）に中隊長として参加する機会を得たが、多数の隊員が負傷するという状況に直面し、隊員一人一人の家族のことも考えると、「これが実戦ではなくて本当によかった」と痛感したことを今でも覚えている。

諸官一人一人にも大切な家族がいる。我々自衛官は入隊時に「事に臨んでは危険顧みず」と服務の宣誓を行っているところであるが、連隊長としては、命じられた任務の必達はもちろんのことながら、諸官を大切な家族であることに無事に還することが責務であるという思いで、当連隊長を指揮・統率する所存である。

このため、分隊長を含む各級指揮官は、何時来るか分からないその時に備え、常に「自分の部隊は今戦える状態か」を自問自答し、全ての隊務を「作戦を基準」として運営し、あらゆる機会を

着任した。
米子駐屯地総合グラウンドで行われた紹介行事において、第十三副旅団長 村上一佐より紹介を受けた。その後行われた着任式において、第八普通科連隊長の隊員から敬礼を受け、巡閲を行った後に着任の辞を述べた。

中尾一佐は「所命必達、無事帰還」を統率方針とし、隊員に対しては「万事件作戦を基準」「仲間と家族を大切に」を要望し、着任式の後に記者会見を実施し、各種報道機関の前で記者からの質問に答えた。また、幹部挨拶

等が行われ、駐屯地内を巡視し部隊の状況等を確認された。

中尾一佐は佐賀県出身で経歴については、第四十一普通科連隊（別府）、防衛大学校（横須賀）、第四十二普通科連隊・第八師団司令部（北熊本）、幹部学校（目黒）、第十七普通科連隊（山口）、陸上幕僚監部（市ヶ谷）、教育訓練研究本部（目黒）、陸上幕僚監部（市ヶ谷）、西部方面総監部（健康）、教育訓練研究本部（目黒）、東部方面総監部（朝霞）等数々の部隊を歴任し、この度着任した。

捉えて徹底的に「戦いに勝ち、仲間を大切な家族のもとに帰せる部隊」を育成してもらいたい。隊員一人一人は「自分は組織の一員である」という自覚を持ち、直属の長の指揮下に率先して入ってもらいたい。

また、厳しい状況でも後顧の憂いなく任務に邁進し、無事帰還するためには、部隊・隊員が健全であるとともに、各現場で安全を管理することが重要である。

各級指揮官は、指揮下にある隊員だけではなく、隊員の大切な家族の人生をも抱えているという自覚を持ち、共に戦う大切な仲間から非戦闘損耗を出すことがないように、ハラスメントの根絶はもちろんのこと、風通しが良い職場環境作りを努め、隊員に寄り添った親身な服務指導を行ってもらいたい。また、我々が行っていることはそもそも危険であるという認識に立ち、あらゆる現場において事故の未然防止を図ってもらいたい。

以上、着任にあたり所信を述べたが、第8普通科連隊長の強靱化が第13旅団のみならず、方面・陸上自衛隊の強靱化、ひいては日本の国土防衛に直結することを信じ、私自身任務完遂に全力を尽くすことを表明し、着任の辞とする。

大切な仲間と家族のため、共に励もう！
令和6年12月20日
第8普通科連隊長
1等陸佐 中尾圭介

阿部 一 佐 離任

十二月十九日、米子駐屯地朝礼場において第四十一代第八普通科連隊長兼米子駐屯地司令 一等陸佐 阿部 正昭の離任式を挙行了した。

阿部一佐は、統率方針「より良い仕事をしよう」要望事項「実行」として、令和五年三月から約一年九ヶ月にわたり連隊長を指揮した。

練成訓練では、米国で実施されたライジング・サンダー23、北海道訓練センター（HTC）など、最前線で部隊を指揮し精強に努めた。また、駐屯地ビジョンとして「また来たい米子駐屯地」を要望事項として「地域と共に」を掲げ駐屯地創設七十四周年記念行事では、自衛隊家族会、記念行事前日のイベント参加者を祝賀行進として参加させる等、各種行事において「また来たい米子駐屯地」を具現化した。

災害派遣においては、能登半島地震・島根県鳥インフルエンザの災害派遣活動に従事し民生の安定に寄与した。

この度定期移動で、宮城県に所在する仙台駐屯地へ異動となった。

阿部一佐の新任地での更なる活躍を祈念する。



見送りの様子

災害派遣

～島根県鳥インフルに伴う災害派遣～

令和六年十月三十日、島根県大田市に所在する養鶏場で鳥インフルエンザの疑いが発生し、同日の検査結果で鳥インフルエンザの要請が確認された。

翌日三十一日午前三時、島根県知事から自衛隊に対し災害派遣要請を受け、陸上自衛隊は第十三偵察戦闘大隊（出雲）、三〇四施設隊（出雲）、第八普通科連隊（米子）、第十三後方支援隊（出雲・米子）、後方支援部隊として出雲駐屯地業務隊（出雲）、第十三通信隊（海田市）



島根県知事からの感謝状授与

第一三三地区警務隊（出雲・米子）が災害派遣に従事した。

自衛隊は、約三十七万羽のうち緊急性の高い十二万三千羽を処理する任務を付与され、連隊はこれまでの活動を行った実績・経験をもとに情報を共有し迅速に派遣活動を行った。

作業間、台風の影響により足首付近まで浸水する中での作業であったが隊員は、作業効率を落とすことなく任務完遂に尽力した。

十一月二日、自衛隊が要請を受けた約十二万三千羽の処理が完了し、じ後は自治体のみで対応が可能となったことから、県から災害派遣の撤収要請を受け活動を終了した。

その後、連隊長は十一月下旬駐屯地において丸山 達也島根県知事から感謝状を贈呈され感謝の言葉を頂いた。

連隊長は今後も、様々な事態に対応できるよう訓練に励んでいく。

積雪寒冷地部隊としての訓練始まる

第八普通連隊は、第十三旅団管内で唯一の積雪寒冷地部隊に指定された冬季装備を保有する部隊である。

毎年一月上旬から二月下旬頃にかけて、その練度を維持・向上するためスキー訓練及び積雪地訓練を行っており、積雪地部隊としては日本で最も西に位置する部隊であることから、広大な地域を担当しその重要性は極めて高い。

各中隊は部隊スキー指導官を中心として冬季訓練を行います。

更に、冬季戦技訓練隊を活動させ各種バイアスロンの競技に参加し国民スポーツ大会にも出場している。バイアスロンとはウィンタースポーツにおける二種競技のことで、クロスカントリースキーとライフル射撃を組み合わせた競技であり冬季近代二種と呼ばれる。

また、スキー指導者を育成する部隊スキー指導官養成訓練を毎年行い指導者の育成にも力を入れるとともに、異動してきたスキー未経験の隊員や昨年入隊した隊員を対象として積雪地の行動に必要な基礎的知識及び技能修得のため新補職者訓練を実施している。連隊は積雪寒冷地部隊としていかなる任務にも対応すべくこれからの練度向上に努めていく。



部隊スキー指導官認定試験



スキー機動



冬季における戦闘（小銃小隊）



冬季における戦闘（狙撃）

初級部隊ネットワーク（必通の信念を）

本部管理中隊の通信小隊を基幹として構成された、旅団集合教育「部隊ネットワーク」通信教育は十月上旬から十二月中旬まで行われた。

本教育は、初級部隊ネットワークの資格を修得するため旅団管内から三十名が集まった。教育では、広帯域多目的無線機（通称 広帯無）の接続・設定要領や有線の結線・縛着訓練等の基礎訓練から有線構成をはじめとする応用訓練まで実施され、十一月二十七日から二十九日まで、教育の集大成として総合訓練が実施された。

本教育で修得したことを糧に、各通信手が必通の信念を持ちそれぞれの部隊で活躍することを期待したい。



結線の様子



導通点検



無線機設定

業務隊（衛生科）後方支援隊と協同訓練

米子駐屯地業務隊（衛生科）及び第十三後方支援隊は、十一月上旬に駐屯地内で小型車両横転事故を想定して、負傷者の人命救助・搬送及び小型車両回収訓練を実施した。

本訓練では、横転した車両から患者の救出、出血部位に対する緊縛止血、心停止患者に対する心肺蘇生、重レッカーによる車両の正常復帰等の訓練を実施し協同連携を図りつつ技術の向上に努めた。

衛生科は、心停止の患者に対して声掛け、心肺蘇生を素早く実施し救急車での患者搬送を行なう訓練を継続して行いさまざまな形で駐屯地を支えていく。

業務隊及び後方支援隊は、今後も様々な事態に対応出来るよう訓練を継続して行いさまざまな形で駐屯地を支えていく。



業務隊衛生科による人命救助



横転車両からの救出



車両の正常復帰

駐屯地チャイルドケア7への取り組み

駐屯地は、防衛省が推進するチャイルドケア7を積極的に取得させ普段、勤務・演習等で不在する隊員家族の理解と協力に努めている。

特別休暇で配偶者の出産特別休暇二日、育児参加のための特別休暇五日をあわせて七日間の特別休暇の取得をいい、防衛省ではチャイルドケア7の取得率100%を目指している。

令和四年度のデータによると、男性の出産に伴い発生する

と陸上自衛官の取得率は95%を超えており、実際にチャイルドケア7を取得した隊員は、「チャイルドケア7を取得してよかった」「育児に集中できてよかった」という声が多かったそう。また、チャイルドケア7とは反対

に、男性の育児の取得率は8%とまだまだ男性が育児休業を取得しやすい環境ではない。男性の育児取得率85%が防衛省の目標であり、男性が産休・育児を取る時も周囲のサポートがとても重要である。

今回は、チャイルドケア7取得を行った隊員のコラムを掲載する。

家族の時間

本部管理中隊 三等陸曹 高本 敬司

私は、九歳（小三）の娘と五歳、四歳の息子がおりチャイルドケア7の制度を二度活用させていただきました。

九歳の娘が生まれた平成二十七年はまだこの制度はなく、令和元年に長男出産後、翌年の次男出産の際はこの制度を活用し出産後の妻、生まれたばかりの長男の面会に娘と訪れる時間が確保でき有意義に活用することが出来ました。

この制度の取得にあたり、当時所属していた中隊の中隊長、先任上級曹長をはじめ多くの方の理解と協力をいただき本当に感謝をしています。当時私は、中隊本部で勤務しており休暇間、業務を引継いでいただいた方には二年間の上番期間で二回も取得をさせていただき、本当に自衛隊という組織だからこそ出来たことだと強く感じました。

また、ここまで大きく無事に育ってくれた子供達と三度の出産を無事終えた妻には感謝しかありません。

自衛官は災害派遣をはじめ、勤務・演習等で長期不在し妻の負担は非常に大きく、この仕事に対する理解が本場に重要だと感じています。だからこそこの制度を多くの自衛官が積極的に活用し、少しでも家族の時間を確保して出産を終えた妻の負担を軽減するためにも、この制度を最大限取得できるような職場環境・雰囲気作りに自分自身も努めていきたいと思います。また、父親として三度もチャンスがあった出産場面に一度として立ち会えなかった私としては、十二月に結婚十年の節目を迎えましたが、今後も夫婦のイベントは勿論のことこれまで以上に家庭を大事に家族サービスを心掛けていく所存であります。



本部管理中隊 高本三曹のお子さん

三度目の出産を終えた妻に感謝

第二中隊 二等陸曹 伊達 靖之



第二中隊 伊達二曹のお子さん

私は、十一月上旬に第三子が誕生し三児の父親として日々奮闘しており、第三子出産にあたり連隊本部で勤務していた私を、連隊長をはじめ科長等に配慮いただき一週間の休暇を取得させていただきました。

その間、第一科で勤務する陸曹の方々には業務を代行して行っていたことに感謝するとともに、積極的な休暇の取得を勧めていただきました。第一子・二子出産の際も、中隊の配慮もあり積極的な取得を促していただき本当に勤務環境に恵まれていると感じ、この組織の偉大さを感じます。また、同居している義理の母、父には私が長期演習等で不在間、妻とともにいつも育児に協力していただき頭が上がりません。

部内異動を経験し、勤務環境が変わったこともあり普段は家族の時間を確保することが難しく、仕事を終え帰宅し、子供の寝顔を見ながら出勤する日も多くありましたが、この制度を活用し一週間、妻不在の生活を経験する中で母親の偉大さ、育児の大変さを肌で感じるとともに、家族と過ごした時間がどれだけ重要であったか、とても得難い経験をさせていただくことができました。防衛省・自衛隊だからこそ実現できたこの制度を、多くの方が積極的に活用し、家族の時間を作っていただきたいと思っています。

私は、普段から妻に感謝の言葉を直接言うことはあまりありませんが、今回掲載の機会を与えてくださった高本三曹に感謝し、一言妻に普段言えない感謝を伝えたいと思います。

「いつもありがとう！ はるちゃん！」

連隊ラッパ手育成への道

第八普通科連隊は、連隊のラッパ特技保有者の練度向上を目的として朝礼時、国旗掲揚の場を活用し隊員の前で吹奏を行っている。

ラッパ吹奏は号令、命令、警報等を伝え士気を高揚し、隊容を整え敬意を表すことを目的として自衛隊の行動を統制する上で必要不可欠な存在であり、その重要度は極めて高い。

各中隊はラッパ助教経験のある練度の高い隊員を主体として、指揮者・ラッパ手を編成し、課業外の時間を活用し練度向上に努めている。

それぞれのラッパ手は、緊張感ある中指揮者と連携し演奏を行い、ベテラン隊員から昨年特技を保有した若年隊員に至るまでさまざまな隊員が日頃の練度の成果を発揮し日々美しい音色を響かせている。



国旗掲揚時のラッパ吹奏

本部管理中隊武装走競技会を実施

連隊本部及び本部管理中隊は十二月中旬、隊員の基礎体力向上及び小隊の団結強化を目的として中隊武装走競技会を行った。

本競技会は、駐屯地をスタートし米子訓練場の起伏のある約五キロのコースを小銃、装備品を携行し個人走によつて各小隊の平均タイムを競った。各人がチームの為に、一秒でも早く走破できるよう課業外を活用して計画的に段階を踏んで練成し、本部管理中隊のスローガンである「獅子奮迅」のごとく小隊・仲間のために全力で体力の限界に挑戦し、若手からベテラン隊員に至るまで競技会に臨んだ。

中隊は、計三回の記録会を設定し体力管理を徹底して練成を行い、競技会本番では、見事な小隊の団結力と意地を見せた情報小隊が優勝した。

今後も連隊本部及び本部管理中隊は更なる団結を強化し更なる練成を重ね、より精強な中隊、



栄光・表彰

- 陸曹上級課程 第四陸曹教育隊長賞 寺澤一曹 第三中隊
- 三軒屋警備支援優秀隊員 第三中隊 三浦士長
- 中部方面会計隊持続走競技会 総合の部 準優勝

- 初級陸曹施設機械整備課程 施設学校教育部長 藤田三曹 第十三後方支援隊
- 中部方面総監表彰 防衛省共済組合米子支部

米子市二十歳を祝う会記念感想文

- 優秀賞 第三中隊 高木士長 入選 本管中隊 大上一士 第二中隊 正畑士長

定年退官

永年の勤務ご苦労様でした。

第一中隊 准陸尉 高田 広幸 十二月十三日付



第三中隊 曹長 北藤 幸樹 十二月二十日付



今年度における広報紙「よなご」の切手代を賜り、ありがとうございました。

豊留 廣志様、高住 正人様、加藤 友美様、富永 千十瀬様の各位。

編集後記

広報紙をご覧の皆様、新年あけましておめでとうございます。毎日厳しい寒さが続いておりますがいかがお過ごしでしょうか？

今シーズンの冬は十年に一度の寒波と呼ばれ、ラニーニャ現象が発生し局地的に大雪になるそうです。

ラニーニャ現象とは、東太平洋赤道域の海面水温が通常に比べ低くインドネシア近海で積乱雲の活動が活発になり、偏西風が蛇行することで冬は北からの寒気が日本に向け南下し厳冬となると言われています。

平成二十三年十二月三十一日には、鳥取県豪雪（米子市積雪八十九cm）が発生し、鳥取県西部から中部にかけて国道九号線が大雪の影響により、約二十キロにわたって約千台の車両が立ち往生しました。

米子駐屯地も災害派遣要請を受け車両の燃料給油、スタック車両の救出、食事の提供などの派遣活動に従事しました。

皆さんも外出される際には天気予報、外の様子を十分確認し積雪の状況を把握した上で車両運行には十分に気を付けて事故・怪我の無いように過ごしましょう。

また、空気の乾燥や免疫力の低下によって今年は特にインフルエンザの流行も予想されています。新型コロナウイルスは減少傾向にありますが引き続き普段の生活面から体調管理も含め自己防衛に努めましょう。

